

佳子内親王殿下がご来館

■ 令和 7（2025）年 4 月 28 日

■ 神戸市立「海外移住と文化の交流センター/移住ミュージアム」

日本とブラジルの外交関係樹立 130 周年にあたる今年の 6 月に、秋篠宮家の佳子内親王殿下がブラジルを訪問されます。ブラジルでは多くの日系団体を訪問される予定で、彼らのルーツであるブラジル移住の歴史についてご見識を深めるため、また、ブラジルから日本に来て暮らす人々の状況についてご見識を深めるため、当センターをご視察のため来館されました。

当センターに到着されてすぐ、満開のイペー（ブラジル国花）の花がお出迎えする様子をご覧になり、たいへん喜んでおられました。

移住ミュージアムでのご案内は中牧先生（国立民族学博物館名誉教授）が務め、池田理事長らも随行しました。ご案内中、佳子内親王殿下は何度も足を止められて展示資料や写真を熱心にご覧になり、多くのご質問をされました。移住者が過ごした寝室のコーナーでは、実際にベッドにお座りになって感触を確かめておられました。

1 階・2 階の移住ミュージアムご見学のと、5 階講堂にご案内しました。窓から一望できる神戸の海と街並みをご覧になりながら、ここで過ごした移住者たちの生活に想いを馳せておられました。

このあと、関西在住ブラジル人の支援活動を行う関西ブラジル人コミュニティ（CBK）の活動現場に足を運ばれ、子供たちが描いた絵をご覧になると、両国の交流に感銘を受けられたご様子でした。

最後の懇談会では、CBK の活動報告の中で在日ブラジル人が直面する多くの課題に耳を傾けられ、将来に向けた取り組みなどを熱心に聞き入っておられました。

そして、池田理事長から日伯協会の概要をご説明したあと、日系ブラジル人の来館者にご先祖の移住記録を提供する活動を井澤事務局長からご紹介すると、多くの移住者たちの貴重な記録が今なお残されてパソコンで検索できることに驚かれたご様子でした。

当センターには過去にも、2009 年に皇太子徳仁親王殿下（現・天皇陛下）、2015 年に秋篠宮文仁親王殿下と同妃紀子殿下、2016 年に眞子内親王殿下（当時）が来館された実績があります。

1928 年に国立移民収容所（当時）として完成したこの建物は、全国から集まったブラジル移住者たちが日本を旅立つ最後の日々を過ごした施設であり、彼らにとって心のふるさとです。当時の面影のまま、日本で唯一現存する海外移住関連の建物であり、ここに設置された移住ミュージアムは神戸市の指定管理で日伯協会が運営を受託しています。

当時は国策として奨励されたブラジル移住の歴史を尋ねて「海外移住と文化の交流センター/移住ミュージアム」にぜひ足をお運びください。皆様のご来館をお待ちしています。



海外移住と文化の交流センター/
移住ミュージアム



ご来館当日に満開のイペー（ブラジル国花）



移住ミュージアムをご視察
(床は 1934 年当時の神戸市の地図)



移住ミュージアムをご視察
(神戸港移民船乗船記念碑のレプリカ)



子供たちが描いた絵をご視察



日伯協会 および 関西ブラジル人コミュニティ関係者によるご説明